



東地区りんご生産情報

令和6年7月4日発行

東地区営農係

7月15日～8月15日は「見直し摘果強化運動期間」です！

- ・東地区管内の肥大状況は、6月に入り干ばつの影響から一時停滞したものの、概ね昨年並みに推移しています。
- ・現在は、仕上げ摘果の最盛期となっておりますが早く、【強い】摘果を心がけ、最終着果量に近づけましょう。
- ・7月15日からは見直し摘果強化運動期間となっております。早生種→中生種→晩生種の順で【強さ】に重点を置き、間隔の近いもの、病害虫被害果などを摘み取りましょう。
- ・薬剤散布は、昨年多発した褐斑病を中心に降雨前散布の防除に努めましょう。

りんご肥大状況

7月1日現在の肥大状況 (cm)

調査地点名	つがる			ジョナ			王林			ふじ		
	本年	昨年	昨年比 (%)	本年	昨年	昨年比 (%)	本年	昨年	昨年比 (%)	本年	昨年	昨年比 (%)
薬師堂	5.2	5.3	98	5.0	5.5	90	5.3	5.7	92	4.8	4.9	97
狼森	5.4	5.2	103	5.2	5.2	100	5.4	5.1	105	4.7	4.4	106
森山	5.4	5.4	100	4.9	5.1	96	5.0	4.8	104	4.9	4.3	113
駒木	5.3	4.9	108	4.3	4.3	100	4.5	4.4	102	4.1	4.3	95
古懸	4.6	4.4	104	4.9	4.7	104	4.3	4.4	97	4.1	4.2	97

- ・東地区管内のりんごの肥大は全品種とも概ね昨年並みに大きい状況となっております。
- ～マメコバチの管理について～
- ・巣箱は、7月上旬頃に回収し、直射日光が当たる場所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管しましょう。地面からできるだけ離して、巣筒の内部が加湿にならないように注意しましょう。

見直し摘果

・見直し摘果は、着果量が決まる最後の作業ですので、早さより【強さ】が求められます。8月中旬を目安に進めましょう！

また、過着果傾向になりやすい、黄色系品種や生育期間の短い早生種を優先的に・間隔の近いもの・病害虫被害果・サビ果・変形果を摘み取っていきましょう。

7月上旬になると新梢が停止し、今年の葉の枚数が決まります。りんご1果当たりの葉は約50枚必要とされ、その養分が【果実肥大】、【花芽形成】、【着色】、【貯蔵養分】、【樹体の成長】などに使われます。

着果量が適正だと…



養分がバランスよく供給され、樹体維持も保たれ、樹も健全！
次の年の花芽形成もバッチリ！

着果量が多いと…



過着果は・小玉果の原因・樹勢の衰弱・来年の花芽減少につながります。
その他にも日焼け果やビターピット発生、着色不良などの原因にもなるため、適正着果を意識して作業を進めましょう。

りんご防除暦

散布回数 散布時期	10a当たり 散布量	基準薬剤	倍数	1,000L 当たりの薬量	備考
第7回目 落花50日後頃	500L	ラビライト(水) オリオン(水) コルト(顆粒水) カルマッチ	500倍 1,000倍 6,000倍 770倍	1kg×2袋 500g×2袋 167g×1袋 1.3kg×1袋	<p>・殺ダニ剤の選択にお困りの方は、営農係までご相談下さい。</p> <p>褐斑病対策オンリーワンは7月中旬までに散布するようにしましょう。(薬剤耐性発達の危険性がある為、年1回の使用にとどめましょう。)</p> <p>7月半ばの殺虫剤はコンフューザーR設置園ではフェニックス(F)、未設置園ではデリゲート(WDG)を使用しましょう。</p>
第8回目 7月初め	500L	ジマンダイセン(水) アーデント(F) ダニオーテ(F) カルマッチ	600倍 2,000倍 2,000倍 770倍	1.67kg×1袋 250ml×2本 250ml×2本 1.3kg×1袋	
第9回目 7月半ば	500L	オキシンドー(水) オンリーワン(F) フェニックス(F)	1,200倍 2,000倍 4,000倍	835g×1袋 250ml×2本 250ml×1本	
第10回目 7月末又は 8月初め	500L	オキシンドー(水) モスピラン(顆粒水溶) コロマイト(乳)	1,200倍 4,000倍 1,000倍	835g×1袋 250g×1袋 500ml×2本	

令和6年産りんご予約7月19日(金)まで受付中です！1箱でも多い予約をお待ちしております！